

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

住所	千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階
管理機関名	千葉市教育委員会
代表者名	磯野 和美

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
学校長名	佐藤 啓之
類型	グローバル型

3 研究開発名

2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

4 研究開発概要

探究活動『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』、国際交流、海外研修、英語ディベート授業、グローバル講演会、グローバル企業訪問等により、グローバルな視点を持った課題解決能力を身に付けさせ、持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。

「総合的な探究の時間（各学年1単位）」において、『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』という探究活動を研究開発する。

探究活動を計画するにあたっては、スーパーグローバル大学として採択された千葉大学国際教養学部をはじめ、コンソーシアムを構成する各機関と連携して、実施内容を構築する。

研究開発にあたっては、探究活動に必要な基礎資料やデータの提供、市の政策担当者や市長と討論する機会や政策を実践する場を設定する。また、本事業の展開にあたっては、市内大学（千葉大学・神田外語大学・東京情報大学・敬愛大学）、企業（SMB C日興証券株式会社）、千葉市内の各機関（株式会社千葉経済開発公社・社会福祉法人千葉市社会福祉協議会・千葉市を美しくする会等）との連携・協力のもと、コンソーシアムを構築して本事業を実施する。

探究活動を充実させるため、幅広い国際交流、生徒の4割以上（2年生320名中140名）が参加する海外研修、全校で実施している英語ディベート授業、世界で活躍する講師を招いて

のグローバル講演会、SDGsに積極的に取り組むグローバル企業への訪問等を実施する。

高大連携協定に基づく大学授業の受講について、千葉大学、神田外語大学において、地域連携や国際理解に関する授業を受け、稲毛高等学校の卒業に必要な単位として認定する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
藤川 大祐	千葉大学教育学部・副学部長	昨年度からの継続
長田 厚樹	神田外語大学アカデミックサクセスセンター ・センター長	昨年度からの継続
岩崎 久美子	放送大学教養学部・教授	昨年度からの継続
曾我辺 穰	千葉市美浜区役所・区長	区長交代により改めて依頼
藤井 剛	明治大学文学部・特任教授	昨年度からの継続

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
千葉市立稲毛高等学校・附属中学校	佐藤 啓之
千葉市	熊谷 俊人
千葉市教育委員会	磯野 和美
千葉大学国際教養学部	小澤 弘明
神田外語大学	宮内 孝久
東京情報大学	鈴木 昌治
敬愛大学	三幣 利夫
株式会社千葉経済開発公社	志村 隆
社会福祉法人千葉市社会福祉協議会	竹川 幸夫
千葉市を美しくする会	飯森 幸弘
SMB C日興証券株式会社	清水 喜彦

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	若井 たかみ	元 千葉市国際交流協会・事務局長補佐	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	藤森 孝幸	敬愛大学地域連携センター・室長	都度依頼

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム	組織											
コンソーシアム各団体訪問						←→						
グローバル企業訪問							1回					1回
第1学年「総合的な探究の時間」成果発表会								・リハーサル 指導助言	指導助言			
第2学年「総合的な学習の時間」成果発表会									指導助言			
地域協働学習実施支援員				←→ 連絡調整			協議	グローバル企業訪問 総合的な探究の時間成果発表会 リハーサル・指導助言	←→ 総合的な探究の時間成果発表会 ・指導助言			

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成

・コンソーシアムの構成団体

千葉県、千葉県教育委員会、千葉大学国際教養学部、神田外語大学、東京情報大学、敬愛大学、株式会社千葉経済開発公社、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会、千葉市を美しくする会、SMB C日興証券株式会社

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年 4月 1日	コンソーシアムを組織 ・昨年度からの継続依頼
令和2年9月～10月	コンソーシアム各団体の訪問 ・本事業の説明、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の取組の説明、コンソーシアムとして支援の依頼
令和2年10月 2日	グローバル企業訪問 ・敬愛大学の協力により、生徒等が成田国際空港株式会社を訪問

令和2年11月16日	<p>第1学年生徒 「総合的な探究の時間」 成果発表会リハーサル指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神田外語大学アカデミックサクセスセンター センター長 長田 厚樹 氏 ・ 同センター 専任講師 竹内 香織 氏 ・ 敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・ 同 准教授 八木 直人 氏 ・ 千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏
令和2年11月24日	<p>第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (クラス発表) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗 氏 ・ 神田外語大学アカデミックサクセスセンター専任講師 竹内 香織 氏 ・ 敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 ・ 敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・ 同 専任講師 米田 紘康 氏 ・ 千葉大学大学院国際学術研究院准教授 小林 聡子 氏
令和2年12月1日	<p>第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (学年発表) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神田外語大学アカデミックサクセスセンター センター長 長田 厚樹 氏 ・ 神田外語大学メディア教育センター准教授 石井 雅章 氏 ・ 敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 ・ 敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・ 同 専任講師 米田 紘康 氏 ・ 千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏
令和2年12月19日	<p>第2学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (異文化理解の部・修学旅行の部) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神田外語大学アカデミックサクセスセンター センター長 長田 厚樹 氏 ・ 神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗 氏 ・ 敬愛大学国際学部准教授 佐藤 邦政 氏 ・ 同 専任講師 三幣 真理 氏 ・ 千葉大学副学長、大学院国際学術研究院長、 国際教養学部長 小澤 弘明 氏
令和3年3月17日	SMBC日興証券オンラインセミナー

	<ul style="list-style-type: none"> ・金融・経済教育、キャリア教育に関して、オンラインで講話を実施 ・SMB C日興証券経営企画部サステナビリティ推進室 室長 渡部 裕子 氏 ・同推進室 小林 久恒 氏、星 和弘 氏 ・日興リサーチセンター金融教育普及室 室長 大西 史一 氏 ・SMB C日興証券調査業務室 アラン サドラー 氏 ・SMB C日興セキュリティーズ（香港） 鎌田 聖子 氏
令和3年3月22日	全校講演会 東京海洋大学教授 小松 俊明 氏

②カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

<カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザー>

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け
元 千葉県国際交流協会事務局長補佐 若井 たかみ 氏（都度依頼し謝礼支払い）
- ・活動日程・活動内容
海外研修実施に当たり、生徒・教職員に対し講話を行う。

活動日程	活動内容
令和3年3月（新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）	生徒・教職員等に対する講話の実施

<地域協働学習実施支援員>

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け
敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏（都度依頼）
- ・実施日程・実施内容

日程	内容
令和2年9月24日	敬愛大学において、学長・副学長等との協議設定 ・令和2年度事業における活動計画について協議
令和2年10月2日	グローバル企業訪問 ・成田国際空港株式会社に生徒等が訪問に同行
令和2年11月24日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会（クラス発表）指導・助言
令和2年12月1日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会（学年発表）指導・助言
令和2年12月19日	第2学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 指導・助言
随時	「総合的な探究の時間」等における指導・助言、グローバル企業訪問等連絡・調整

③コンソーシアムによる取組も含めた管理機関による主体的な取組について

- ・海外研修旅費等学校教育における費用の支援や取組の支援

- ・外国人講師への財政的な支援
 - ・総合的な探究の時間における生徒の発表への指導・助言（コンソーシアム）
 - ・本事業指定終了後も千葉市のグローバル人材育成の拠点校として位置付け、継続的な支援の実施
- ④高等学校と地域との協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
- ・平成31年3月に敬愛大学と協定を締結している。
- ⑤事業終了後の自走を見据えた取組について
- ・事業の円滑な遂行のため校内体制の整備
 - ・地域協働学習実施支援員による事業実施のための大学・企業等との調全体制の確立

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探究活動 (総合的な探究の時間)			←									→
国際交流							2回				1回	
	本年度は中止/オンラインによる代替企画実施											
海外研修					1回		3回					
	本年度は中止/SDGsに関連した課題探究を実施											
英語ディベート授業			←									→
グローバル講演会					1回中止							1回実施
グローバル企業訪問							1回					1回
高大接続協定に基づく 大学授業の受講					本年度は中止							

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・事業1「稲高生による千葉市創生プロジェクト」

6月から12月にかけて、第1学年の生徒が身近な千葉市を教材とし課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動を行った。10月15日には、千葉市市長部局・千葉市教育委員会の協力のもと、生徒が千葉市内でフィールドワークを行い、探究活動での疑問点等を確認した。11月から12月にかけて学級単位・学年単位・全体での成果発表会を行い、コンソーシアムの協力のもと、大学教授等から指導・助言をいただき、優秀グループを選出した。

・事業2 「SDG s リサーチプロジェクト」

12月以降、千葉市創生プロジェクトの経験を活かし、更なる探究活動を個人で展開した。SDG s などのグローバルな課題と関連付けて、自己の興味関心から主題を設定し、第1学年では研究計画書の作成、第2学年では調査活動および探究論文の執筆を行った。

学問分野から10のゼミナールを編成し、生徒は自己の興味関心をもとに所属を決めた。令和元年度は第1学年の生徒のみで活動、令和2年度は第1学年と第2学年の生徒で学年を横断した活動を行った。生徒相互の学び合いや交流によって学習効果の向上を目指した。

・事業3 国際交流

新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような活動ができなかった。そこで地域との連携やICTの活用によって、代替企画を実施した。10月13日には、普通科第2学年生徒（内部進学生）は、国際NGOを招いてのセミナーを実施した。また国際教養科第2学年生徒は、同日に東京のJICA本部を訪問した他、千葉大留学生との交流授業を複数回実施し、後述の探究活動の発表内容についての指導・助言を受けた。第2学年では希望者を募り、メロス言語学院とのオンライン交流を行った。2月2日には、国際教養科第2学年生徒は、ユネスコ主催事業の韓国とのオンライン交流を行った。

・事業4 海外語学研修

毎年実施している夏期語学研修、秋期語学研修はいずれも新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。そのため、普通科2年生（内部進学生）、国際教養科2年生はSDG s と関連したグローバル課題を主題とする探究活動を行った。12月19日にそれぞれ在校生を主に対象とし、校内発表会を実施した。

・事業5 英語ディベート授業

ネイティブ講師を活用し、少人数で指導した。また部活動においては、千葉県高等学校英語ディベート大会第1位、全国高校生英語ディベート大会第3位等、優秀な成績を収めた。

・事業6 グローバル講演会

例年大学等から講師を招聘し実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により、8月実施予定については中止となったが、3月22日については東京海洋大学・小松俊明教授を招いて実施することができた。

・事業7 グローバル企業訪問

コンソーシアムの協力のもと、10月2日に成田国際空港株式会社を訪問した。世界を舞台に活躍する企業を訪問し、普段訪問することができない学校での学習と自分の将来とを関連付けて考えることができた。3月17日には、本年度訪問できなかったSMB C日興証券株式会社とのオンライン交流を校内で実施することができた。

・事業8 高大連携協定に基づく大学授業の受講について

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- ・総合的な探究の時間において、コンソーシアムの協力のもと、地元である千葉市の地域の課題を発見し解決する探究活動「千葉市創生プロジェクト」を行った。またSDG s などのグローバルな課題と関連づけて自己で主題を設定し探究を行っていく活動「SDG s リサーチプロジェクト」を実施した。

- ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
- ・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱う。国語科では文章の作成について、社会科では探究活動について、外国語科では英語を使用した発表への作文指導、情報科では効果的な資料作成の指導等を行った。
- ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
- ・校内の総合的な探究の時間検討委員会を中心に、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進めた。定期的に進捗状況を確認し、円滑に事業を進めることができる体制をより明確にした。
 - ・上記に加え、「SDGs リサーチプロジェクト」を進めていくために、第1学年・第2学年の職員による「合同会議」を定期的実施した。
 - ・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱った。（クロスカリキュラム等シラバスに記載）
- ⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
- ・各事業に関わる中心的な職員で構成される地域との協働推進委員会を校内に設置し、各事業の連絡調整や外部との連携等を担い、学校全体で研究開発に取り組む体制が整った。
 - ・総合的な探究の時間検討委員会を中心に、第1学年および第2学年が主体となって探究活動を推進し、「千葉市創生プロジェクト」および「SDGs リサーチプロジェクト」を実施した。また連絡調整のために、第1学年・第2学年の担当者を中心に合同会議を定期的実施した。第2学年については、海外研修が中止となったため、代替となる探究活動を国際交流部と連携し推進した。
 - ・地域との協働推進委員会が中心となって、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進めた。
- ⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- ・探究活動やグローバル企業訪問等において、企業等との連携を随時図り、円滑に事業を進めた。
- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・校内探究委員会において、定期的に進捗状況を確認するとともに、運営指導委員会やコンソーシアムからの指導・助言、高校魅力化評価システム並びに学校評価等を活用し、事業を改善していく。
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・コンソーシアム構築により、地域が求める人材像の共有化や実施プログラム改善を図った。
 - ・総合的な探究の時間における長期的なアドバイザーを、本校の探究活動に長年関わってくださっている専門家3名に依頼し、来年度の探究活動計画を指導・助言いただく体制を構築した。
- ⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- ・運営指導委員会の構成員
千葉大学教育学部教授 藤川 大祐 氏
神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹 氏

放送大学教養学部教授
千葉市美浜区長
明治大学文学部特任教授

岩崎久美子 氏
曾我辺 穰 氏
藤井 剛 氏

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年10月24日（第1回）	第1回会合 ・運営指導委員会設置要綱審議 ・本事業の説明 ・これまでの取組の説明及び指導・助言 ・今後の事業の取組の説明及び指導・助言
令和3年3月11日（第2回） （オンライン開催）	第2回会合 ・本年度の取組の報告及び指導・助言 ・次年度の取組の説明

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・千葉市における探究活動を実施するとともに、海外研修においてフィールドワーク等とおして探究活動を行い、グローバルな視点を持つことができるようにしている。また、ネイティブ講師を活用し、先進的な外国語教育を実施している。

⑪成果の普及方法・実績について

- ・千葉市の広報紙に事業の取組について掲載し、千葉市民へ周知した。
- ・研修会で成果発表を行い、報告書を作成し関係機関へ配付する。
- ・千葉市教育委員会のWebページに、成果物を掲載する。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価（＜添付資料＞目標設定シート）

- ・今年度新設した地域との協働推進委員会、第1学年・第2学年合同会議といった校内組織を中心に各事業を円滑に進めることができた。特に年度当初、新型コロナウイルスの感染症対策から、職員が集まっての会議を行うことが難しかったため、地域との協働推進委員会はICTを活用し、連絡を遠隔で取り合えるようにし、学年間・分掌間の連携が以前よりも進んだ。
- ・「GPS-Academic」の結果をまとめると、高校1学年・2学年ともに「②協働的思考力」のスコアがA段階以上となった生徒の割合が大きかった一方、「①批判的思考力」及び「③創造的思考力」のスコアがA段階以上となった生徒の割合が例年よりも低い結果となった。とりわけ高校2学年ではスコアの伸びが低下している結果となっていた。そのため段階別に昨年度との伸びを調べたところ、「①批判的思考力」や「③創造的思考力」については、この1年間でB段階やC段階の生徒については上昇もしくは維持、それに対してA段階の生徒については低下している傾向が見られた。
- ・高校1学年・2学年生徒に実施した「高校魅力化評価システム」では、とりわけ「協働性」が高く、「社会性」が低いという結果となった。他の3観点と比べ、「社会性」の自己評価が低いのは全国的な傾向であると言え、「社会性」の低さは本校だけの問題ではない。むしろ社会課題への関心も高く、選挙への参加など社会参画意識も他地域と比べて高い傾向にある。また、国際社会の課題解決に貢献したいと考える生徒の割合が高い。一方、自

分たちが生活している地域への関心や地域の担い手だという意識は弱く、卒業後も地域で働きたいという生徒の割合が低い。それは本校が都市部に位置しており、都内に通勤可能なベッドタウンであることも関係していると考えられる。「探究性」については、他地域と比較し高い傾向を示している。日頃の教科学習自体への意欲は高い傾向を示すが、地域課題探究への意欲はそれをやや下回る。また勉強したことを別の問題に応用したり、複雑な問題を順序立てて考えたりすることが苦手だととらえていることも特徴的である。

- ・運営指導委員会では、新型コロナウイルス感染症による影響がある中で、学校として教育活動を進めていることについて全体的として肯定的な評価であった。論理的かつ提案性の強い発表をすることや大学の教員の効果的な活用について、示唆に富んだ助言をいただくことができた。また、ゼミナール活動についても前向きな意見が多く、図書館の活用やより学術的な内容での探究活動について具体的な助言をいただいた。
- ・文部科学省との意見交換会では、本校は都市型の地域協働ということもあり、地域からの多様な支援を受けにくい反面、他の指定校と比べた強みとして、コンソーシアムに複数の大学が加わっている点、またグローバル企業のSMBC日興証券が加わっているといった点は高評価であった。一方、現時点では、海外交流アドバイザーも含め、地域の外部人材の活用が十分とは言い難い状況であり、来年度の課題としたい。また、附属中の取組や普通教科との連携について質問を受けた。本校では、情報科や英語科以外の教科でも探究的な学びにつながる取組を行っていると思われるが、視覚化できておらず把握できていないことを再認識させられた。最終年度に向けて、これらの事業の取組を踏まえて、本校が育成すべき資質・能力を見直し、整理することが必要だと指摘を受けた。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- ・コンソーシアムに協力いただける大学や企業を増やしていくとともに、目標を共有し、協力体制を整える。コンソーシアムを構成する機関の代表者から指導・助言をいただくとともに、コンソーシアムを構成する機関の担当者等と連絡協議会を開催し、地域の在り方や地域が求める人材について共有し、指導体制を構築する。特に、本校の地域的な利点を生かし、大学との協働により、探究活動やキャリア教育のより一層の深化を目指していく。
- ・本事業の目標である考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、協働する力（柔軟性・傾聴力・状況把握力）、行動する力（主体性・実行力・働きかける力）の育成に向け、円滑な事業の遂行に努める。加えて、「GPS-academic」や運営指導委員会から批判的思考力の伸びが課題となっており、探究活動の計画を再度見直し、こうした力を伸ばしていくようなカリキュラムへの改善を行い、検証していく必要がある。
- ・海外交流アドバイザーの業務について、海外研修に関する企画立案等、学校と連携し協力体制を構築する。

【担当者】

担当課	学校教育部教育改革推進課	TEL	043-245-5914
氏名	福水 勝利	FAX	043-245-5989
職名	指導主事	e-mail	katsutoshi1523@city.chiba.lg.jp